

荒川上流河川事務所では、排水ポンプ車、照明車、Ku-SATなど
さまざまな災害対策用機械により災害に備えています。



排水ポンプ車



Ku-SAT



照明車

災害対策用機械とは？

地震や台風などによるさまざまな自然災害から、地域住民の生命や財産を守り、さらに社会経済活動の維持を図るために、荒川上流河川事務所をはじめ、国土交通省では災害対策用機械を配備しています。その種類として、排水ポンプ車、照明車、Ku-SATなどがあります。

予期せぬ災害に迅速かつ適切に対応するために、いち早い災害箇所の復旧支援等を行うとともに、情報収集のための非常用通信回線を確保するなど災害対策用機械の有効活用を図っています。

▶ さまざまな災害対策用機械

排水ポンプ車

台風や梅雨時期などの大雨であふれた川の水をポンプで吸い込み、家や道路などが水に浸かるのを防いだり、水に浸かってしまった場合でも早く水を減らすために使用する車両です。



2015(平成27)年9月関東・東北豪雨
派遣先の排水作業の様子(常総市)



2015(平成27)年9月関東・東北豪雨
派遣先の排水作業の様子(常総市)

照明車

災害からの復旧等で夜間作業時に現場内を明るく照らして、安全に作業などを行うために使用する車両です。



2015(平成27)年9月関東・東北豪雨
派遣先の排水作業の様子(常総市)

Ku-SAT

災害時にリアルタイムで被災状況映像伝送を行います。



衛星回線を使用して音声・映像を伝えます

▶ 災害対策室

荒川上流河川事務所には大型モニターを備えた災害対策室があり、モニターには雨量や水位等のデータがリアルタイム表示できたり、各地に設置した観測カメラの映像を映し出す等、いろいろな情報が一括して把握できます。

洪水や地震などの災害時における状況の把握や施設の操作、対応の検討などは、主にこの部屋で行われます。



コラム TEC-FOCE (緊急災害対策派遣隊)

大規模自然災害への備えとして、迅速に地方公共団体等への支援が行えるよう、2008(平成20)年4月に創設されました。

被災自治体が行う被災状況の迅速な把握、被害の拡大の防止、被災地の早期復旧等に対する技術的な支援を円滑かつ迅速に行います。2017(平成29)年10月末までに東日本大震災をはじめ78の災害に対し、のべ6万人・日を超える地方整備局などの職員により被災地支援を実施しています。



災害派遣要請を受け、堤防等の被災調査を行う
荒川上流河川事務所職員

